

## 「国有林への期待と要望」

沖縄県 農林水産部 森林緑地課 課長 謝名堂 聡



今年、沖縄県の本土復帰40周年という節目の年にあたるとともに、県民が望む本県の将来像を実現するための「沖縄21世紀ビジョン基本計画」が5月に策定されました。本計画において、本県の森林・林業については「森林の有する機能に応じた利用区分(ゾーニング)を行い、特用林産物の安定生産や県産材を利用した木工芸等の推進など豊かな森林資源を生かし、環境と調和した持続可能な林業生産活動、計画的な森林・林業の振興に取り組む」こととしております。

本県の森林・林業の拠点となっているやんばる3村(国頭村、大宜味村、東村)の森林は、林業・林産業が行われる地域であると同時に、固有性の高い希少な野生生物が生息・生育する地域でもあります。そのため、やんばるの森林において持続的な林業・林産業の振興を図るためには、森林の利用と保全の両立を図ることが不可欠であります。

環境省は、やんばるを含めた奄美・琉球諸島の森林地域を世界自然遺産へ登録するための取り組みをスタートしており、平成25年1月に世界自然遺産登録に向けた暫定リストへの掲載を予定しています。

現在、県では、沖縄森林管理署、地元3村、また、環境分野を含めた関係機関や団体と調整を行い、やんばる地域の森林の取り扱いに関する県の施策方針である「やんばる型森林業の推進(案)」の策定に取り組んでいるところであります。

本県の国有林は、民有林と比べ森林資源が充実した林分が多く、貴重な野生動植物も多く生息・生育しています。

沖縄森林管理署におかれましては、県内の歴史的重要な建築物の修復材の生産を目的とした「首里城古事の森」の活動に取り組まれるなど、県内における木の文化の継承に多大に貢献されております。

今後は、国有林において、長伐期施業等も含めた森林施業の実践や、水土保全機能を高めつつ、更なる森林生態系の保全に取り組むことを期待しているところであります。

本県の森林の持続的な利活用については、今後も沖縄森林管理署や関係者の方々と連携を図りながら取り組んでいきたいと考えております。